

学 位 論 文 題 名

オルタナティブ・メディアの  
社会的インパクト評価に関する研究

－カナダの先住民族テレビを事例とした内容評価分析に基づく  
社会空間変容の検証－

学位論文内容の要旨

1. 研究目的

本研究の目的は、先住民族によるメディア実践（先住民族メディア）を題材に、オルタナティブ・メディアの社会的インパクトを評価する理論的・方法論的枠組みを提示すること、ならびに、新たな学術領域である「先住民族メディア論」の基盤を形成することである。

2. 背景および意義

放送メディアは、20世紀を通じて主要な社会的コミュニケーションの媒体として定着したが、情報の送り手と受け手が分化した伝統的なメディア環境では、エスニック・マイノリティなどの社会的弱者は、他者の視点で表象されることが多く、ステレオタイプがもたらす有形無形の不利益を被ってきた。一方で、技術革新や社会情勢の変化を背景とするメディア環境の今日的変容は、オルタナティブなマス・コミュニケーションの地平を拡大しており、例えばカナダでは、先住民族によって運営される放送局が既に存在する。

こうした代替的なメディア実践は、社会の変容を促すと主張されてきたが、概してオルタナティブ・メディアの研究は、先駆的な実践事例の実態分析、あるいは記述的な分析に著しく偏重してきた。特に先住民族メディアの研究は、移民や一時的な越境労働者など、歴史背景や集団的到達点が異なる他のエスニック・マイノリティと同列に論じられ、体系化や理論化には程遠い状況にあった。また、社会変容の意味やその過程に関する理論的説明や実証分析も十分ではなく、さらに、オルタナティブ・メディアのコンテンツに関する体系的・実証的な研究も、実質的に皆無であったといつてよい。

以上を踏まえた本研究は、メディア研究における新たな視座と手法を提供する学術的意義、そして「メディア利用による社会デザイン」の考えを発展させる上で不可欠な、理論的・方法論的枠組みを提供する社会的意義の双方を併せ持つ研究である。

3. 研究内容

本研究では、第1章から第5章に該当する以下の作業を通じ、研究目的の達成を図るものである。

- ① メディア社会学的観点から、オルタナティブ・メディアの意義・影響等を検討する。
- ② 「先住民族メディア論」という、新たな学術領域を確立する意義と必要性を確認する。

- ③ オルタナティブ・メディアがもたらす社会的インパクトの評価枠組みを提示する。
- ④ カナダの先住民族テレビを事例に、内容分析に基づく実証分析を実施する。
- ⑤ メディア環境の今日の変容の意義や含意を、社会空間概念に基づいて考察する。

#### 4. 研究方法

本研究は、理論的考察と実証分析から構成される。理論的考察は、メディア論を中心に関連分野の先行研究を再検討し、オルタナティブ・メディアの社会的インパクト評価に係る理論的側面を整理・体系化することで行った。なお、本研究の理論的考察を経て提示される理論的・方法論的な枠組みは、メディア政策や社会・文化政策といった公共政策へのフィードバックを念頭に置き、理論と実践の架橋を強く意識している点でも特徴的である。

実証分析は、第4章で行うニュース番組の比較内容分析(comparative content analysis)である。その目的は、理論的考察から仮説として導かれる、メディアのオルタナティブ性をコンテンツから検証することにある。比較内容分析は、それぞれカナダを代表する、先住民族テレビ局(APTN)と商業放送局(CTV)のニュース番組を対象に行った。

#### 5. 研究結果と考察

第1章では、メディア環境の今日の変容に至る歴史的背景や、メディアと社会変容の関係を再考し、メディア環境の今日の変容が社会的弱者にとって有益であること、社会空間モデルからその変容を把握・分析する意義等について明らかにした。

第2章では、社会的弱者としての先住民族に焦点を当て、メディアと先住民族の関係性を再検討し、先住民族メディアの社会的機能モデル、エスニック・メディア研究の枠組み等を提示し、先住民族メディア論の理論的基礎の確立に資する考察を行った。

第3章では、メディアの政策的利用の現状と、その理論的支柱であるメディア効果研究の系譜を概観し、十分な説明を欠いてきたコミュニケーションと(社会的弱者の)エンパワメントの相関を明らかにしつつ、社会的インパクト評価の基本的な枠組みを提示した。

第4章の比較内容分析結果から、APTN ニュース番組のフレーミングおよびフォーマット上の特性が明らかにされた。例えば、全国ニュースながら特定地域・集団を反映する傾向、また、先住民族の市民的立場からの表象や相互作用的な表象の増加、時間的余裕のある制作スタイルなど、いずれもCTV とは好対照の結果を示し、本研究の範囲内では、APTN コンテンツに顕現する独自(オルタナティブ)性が確認されたと結論付けられる。

第5章では、コンテンツの質的差異に関する追加的な比較内容分析も踏まえ、オルタナティブ・メディアの社会的インパクトと、その評価を巡る意義・含意等を総合的な見地から考察した。また、先住民族メディア論の諸側面を改めて整理し、その課題と展望について検討した。

#### 6. 結論

本研究では、オルタナティブ・メディアの社会的インパクトを、新たな社会的コミュニケーションの存立がもたらす「社会空間の変容」と捉え、さらにそれが内容分析から検証可能であることを結論として導き、実際に試行的な内容分析も行った。

本研究の論述過程で考案・提示された諸概念(社会空間モデル、先住民族メディアの社会的機能モデル、エスニック・メディア研究の枠組み、社会的インパクト評価の基本的枠組み等)は、批判主義的な研究アプローチ、あるいは記述分析に偏重してきたオルタナティブ・メディアやエスニック・メディ

アの研究蓄積に対し、その視座と手法の再構築を迫るものであり、一定の学術的成果を示すことができたと考えられる。

また、本研究が提示した理論的・方法論的枠組みは、「先住民族メディア論」の基盤形成に資すると同時に、地域振興や人間・社会開発における放送メディアの利用、すなわち「メディア利用による社会デザイン」の推進に重要な示唆を与えるものである。この点、本研究は、現代社会が直面する諸課題の解決に、メディア研究の立場から貢献するものであり、社会的意義も併せ持つ研究として、一定の成果を提示するに至ったと結論付けられる。

# 学位論文審査の要旨

主 査 助 教 授 伊 藤 直 哉  
副 査 教 授 野 坂 政 司  
副 査 教 授 吉 田 徹 也

学 位 論 文 題 名

## オルタナティブ・メディアの 社会的インパクト評価に関する研究

－カナダの先住民族テレビを事例とした内容評価分析に基づく  
社会空間変容の検証－

### 《学位論文の内容》

本研究は、先住民族によるメディア実践(先住民族メディア)を題材に、オルタナティブ・メディアの社会的インパクト評価に係る理論的・方法的枠組みを提示すること、ならびに、新たな学術領域である「先住民族メディア論」の基盤を形成することを目的とした実証研究である。

本研究は、理論的考察と実証分析の全5章から成る。理論的考察では、メディア論を中心に関連分野の先行研究が再検討され、オルタナティブ・メディアの社会的インパクト評価や、先住民族メディアに関する理論的側面が整理・体系化されている。また、実証分析では、仮説として導かれたメディアのオルタナティブ性をコンテンツの内容分析から検証するため、それぞれカナダを代表する、先住民族テレビ局(APTN)と商業放送局(CTV)のニュース番組の比較考察が行われた。

### 《研究の成果》

本研究での考察と分析の結果、以下の具体的研究成果が提出されている。

第1章では、メディア環境の今日的変容に至る歴史的背景や、メディアと社会変容の関係が検討され、近年のメディア環境を巡る構造変容の社会的弱者にとっての有益性、そして社会空間モデルによる把握・分析の意義等が明らかにされた。

第2章では、社会的弱者としての先住民族とメディアの歴史的・現代的関係性が考察され、メディア環境の変容を踏まえた先住民族メディアの可能性やその社会的機能、さらにエスニック・メディア研究での位置付けに関するモデルが提示され、先住民族メディア論の理論的基盤の構築が図られた。

第3章では、メディアの政策的利用を巡る課題や、その理論的背景となるメディア効果

研究が概観され、過去十分な説明を欠いてきたコミュニケーションと社会的弱者のエンパワメントの相関が論理的に説明され、社会的インパクト評価の基本的な枠組みが提示された。なお、この枠組みは理論と実践の架橋を強く志向した点でも特徴的である。

第4章では、比較内容分析の結果から、APTNのフレーミングおよびフォーマット上の特性が確認された。例えば、全国ニュースながら特定地域・集団を反映する傾向、また、先住民族の市民的立場・相互作用的な表象、時間的余裕のある制作スタイルなど、いずれもCTVとは好対照の結果を示し、本研究の範囲に限っては、独自(オルタナティブ)性に関する仮説が立証された。

第5章では、コンテンツの質的差異に関する分析も踏まえ、オルタナティブ・メディアの社会的インパクトと、その評価を巡る意義・含意等が総合的見地から考察された。また、先住民族メディア論の諸側面も改めて整理され、その課題と展望が明らかとなった。

## 《質疑応答》

審査委員から、以下のような指摘・質疑等がなされ、論文執筆者からは明確な解答が得られ、審査委員の了承を得た。

- 1) 様々な学問領域におけるエンパワメント概念の多様性と学位論文内での取り扱いについて質問がなされ、論文内での概念特性に関して説明があった。
- 2) 論文内で使用あるいは提示された諸概念・モデルの捉え方や背景等について質問がなされ、解答があった。
- 3) 新たな情報メディア形態を踏まえた本研究の今後の展開とその方向性について質問がなされ、解答があった。
- 4) 公共圏概念に関する社会学理論上の射程に関して質問があり、解答があった。
- 5) 評価理論に関し、メディアの社会的インパクト評価に応用する妥当性や有効性について質問がなされ、解答があった。
- 6) 本研究がもたらす学術的・社会的意義の詳細について質問がなされ、解答があった。

## 《論文評価の総評》

オルタナティブ・メディアの研究は、先駆的な実践事例の実態分析、あるいは記述的な分析に著しく偏重してきた。特に先住民族メディアの研究は、歴史背景や集団的到達点が異なる他のエスニック・マイノリティと同列に論じられ、体系化や理論化には程遠い状況にあった。また、社会変容の意味やその過程に関する理論的説明や実証分析も十分ではなく、さらに、オルタナティブ・メディアのコンテンツに関する体系的・実証的な研究も実質的に皆無であったといつてよい。以上を踏まえた本研究は、メディア研究における新たな視座と手法を提供する学術的意義、そして「メディア利用による社会デザイン」の考えを発展させる上で不可欠な、理論的・方法論的枠組みを提供する社会的意義の双方を併せ持つ研究として高く評価されるものである。よって論文執筆者は、審査委員会の総意により、北海道大学博士(国際広報メディア)の学位を授与される資格があるものと認める。